

平成 24 年度第 1 回廃棄物減量等推進審議会議事録

期日：平成 24 年 7 月 30 日（月）

場所：多治見市役所 5 階第 1 会議室

出席委員：伊藤会長、谷口副会長、長谷川委員、加藤（誠）委員、近田委員、安藤委員、
加藤（誠二）委員、相原委員、白石委員、坪井委員

欠席委員：坂崎委員、林委員

事務局：水野環境文化部長、岡田環境文化部次長、伊藤環境課長、
市川課長代理、原主査

議題

- ① 一般廃棄物処理計画の見直しについて
- ② 循環型社会システムの C 段階計画のごみ減量施策について
- ③ 生ごみ処理機購入の助成制度利用者へのアンケート実施について
- ④ 環境基本計画の事業者アンケートの実施について
- ⑤ ごみ処理手数料の見直しについて

1 開会挨拶

環境文化部長挨拶

2 議題

議題①

（一般廃棄物処理計画の見直しについて、資料に基づき事務局より説明）

（委員） 4 の目標資源化率 40 % について、従来の目標が変わっている。今はどんな計算式になっているのか。この数値の計算式について説明をお願いしたい。

（事務局） 溶融炉になり、コークス等の取扱は当初にはなかった。C 段階の資源化率の目標 40 % を達成するための方策についてご審議いただきたいと思っている。また、構想が終了する 28 年度以降のことについても今後ご審議いただくこととなる。

（会長） 資源化率の目標数値が適切か、どうかという議論を今後進めたい。
現状に即していない点、新しい試み（陶磁器食器）の部分を見直していくということによ

ろしいかと思う。

(委員) 陶磁器以外に、リユース出来そうなものは、何があるのか。

(事務局) 今は、ビンなどや大型の家具などをリユースしている。

(委員) 陶磁器はリユースしていないのか。

(事務局) 陶磁器はリユースではなく、集めた陶磁器を粉砕し、原料として再利用するというもの。現在は、月7トンぐらい収集している。

(委員) 修正箇所などは、提案どうりでいいと思うが、処理計画の効果は、どのようか。

(事務局) 成果については、「多治見市の環境」を発行し、市民に広報している。

(会長) 小型家電も盛り込むことが必要ではないか。本議題については今後も引き続くことになるので、各自資料等をよく見直しておいてほしい。

(事務局) 今日、ご意見いただいたものを反映し、見直したものを次回の審議会前までに、各委員にお送りする。

議題②

(循環型社会システムのC段階計画のごみ減量施策について、資料に基づき事務局より説明)

(委員) 企業は経費削減のため廃棄物の有効利用を心がけているので、事業系のごみは減少しているのではないか。たとえば、廃棄物（不用品）の情報交換の場があると有効利用が進むと思う。

(事務局) 産業廃棄物の適正な処理の関係もあり、廃棄物となると難しいところ。現在建設廃材などは、法律ができ、リサイクルが進められているが、可能かどうか確認したい。

(委員) 48ページの⑦リサイクルプラザの活用についての年間の活動内容は記載しないのか。リサイクルプラザがどういった施設なのかが不明瞭である。

(事務局) これは計画なので、活用状況はこちらには記載していない。リサイクルプラザ

は、粗大ごみで集めた家具などを修繕して、年に 1 回リサイクルデパートという形で販売している。

取組状況については、「多治見市の環境」に記載していく。

(委員) この場所（今ある施設）を、先ほどのリサイクルの情報交換の場として活用できないか。啓蒙活動も含めた活動ができると、この施設の意義を知ってもらえるのではないか。

あと、環境教育について、とても重要な事であると思う。子どもたちの可能性に期待したい。幼・小・中を通して、一貫性をもった教育計画ができないか。

(事務局) 教育委員会とも相談し、学習内容に沿って進めていきたい。5 年生の 3 学期に温暖化の勉強をすることから、今年度の新 6 年生に、エコカレンダーを配布した。

(委員) リサイクルプラザで、自転車のリユースについては、気をつけていただきたい。以前、リサイクルプラザで購入したものが、盗難車だったため、購入者がトラブルに巻き込まれたことがあった。

(事務局) 過去にそういったことがあったため、現在は、自転車について、リサイクルプラザで取り扱っていない。

(委員) 3 点質問したい。

- ① 生ごみの堆肥について、堆肥化したものを市民へ配布（販売）しているのか。
- ② 現在飛灰はコンクリートで固めて、最終処分場に埋めているが、このブロックを土砂災害を防止するためのブロックとして活用できないか。
- ③ 家庭から出されるごみの中で、まだ、資源化できるものがあるのではないか。分析して町内会などへ知らせてはどうか。

(事務局)

- ① 各家庭で生ごみ処理機を使用している人は、各家庭で利用されているのではないと思う。実態を把握するためにも、今回の議案にあるようなアンケートをとりたいと思っている。

堆肥化センターで作った堆肥は、学校に配布している。

- ② 三の倉センターで焼却をすると、飛灰とスラグができる。飛灰には重金属が含まれているので、コンクリートで固めて、溶出しないように、きちんと管理する必要がある。スラグについては、無害化されたものなので、現在もコンクリートに

混ぜて、２次製品として利用している。

実際には、Ｕ字溝として生まれ変わっているものもある。

土砂災害関係についても、スラグの２次製品が、活用できると思う。

- ③ 家庭から出るごみについては、現在年４回組成分析を行っている。どんなごみが多いのかを把握し、ごみ減量の方策を検討するなかで、市民にも周知していきたい。

（委員） 生ごみを処理する前に脱水することはできないのか。外国では、生ごみを粉碎し、下水にそのまま流し、下水処理場で脱水している。

飛灰については、再度溶かすと金属と分離できないのか。

（事務局） 生ごみを粉碎して、下水に流すことについては、下水処理場の処理能力の問題もあり、取り入れていないが、脱水機については、一度調べてみる。

金属（メタル）は、取出せるものはすべて取出している。現在の技術では、飛灰からこれ以上メタルを取り出すことは困難。

議題③

（生ごみ処理機購入の助成制度利用者へのアンケート実施について、資料に基づき事務局より説明）

（委員） 各年度 それぞれ１５名のアンケートで、傾向が取れるのか。

（事務局） 全体で３００名なので、傾向は把握できていると考えている。

（委員） ごみ減量施策のためのアンケートなのか、生ごみ処理機の利用を促進するためのアンケートなのか、現在の活用状況を知るためなのか、よくわからない。

（事務局） 補助金の金額については、個人で購入するものについて、どこまで補助するのかという議論から、見直しをした経緯がある。生ごみ処理機（処理容器）を使用してみてどういった課題等があったのかを尋ねることで、今後の方策の検討に役立つと考えている。

（委員） 補助金制度が有効であったかの設問を設けてみてはどうか。問３だけではちょっと足りないのでは。

（委員） 自分も購入している。補助額が適正であるかどうかはわからないが、補助金（制

度)があると背中を押されるので、もっと PR をすることは必要ではないか。

(委員) 堆肥化(生ごみ処理容器)だと衛生面からの問題があり、生ごみ処理機に変更された人はいくのではないかと。試験的におこなった姫と梅平での生ごみ処理機は、大変よかった。家庭ではできないが、団地等でやると利用者が多かった。

(事務局) 過去の購入者が現在も使用しているのか、どういう理由で使用を止めてしまったのかなどの方が聞けると思っている。補助制度が有効であったかの設問は検討したい。

(委員) 生ごみ処理機をもっていない人へも聞きたい。

(事務局) それはまた違う形で聞きたい。

(会長) それは PR する時のアンケートで聞いたらどうか。

(委員) 購入しない人は、家庭菜園とかしてない人が多いのではないかと。

(会長) 8月発送ということなので、他に意見があれば、事務局に直接申し出てください。

(事務局) 他にご意見がなければ、先ほどの補助金制度が有効であったかどうかの設問を加えたもので、発送する。その結果は、審議会で報告する。

議題④

(環境基本計画の事業者アンケートの実施について、資料に基づき事務局より説明)

(委員) 雨水利用について、北欧と比べ比較的雨量が豊富である。雨水利用の仕方をもう少し考えてみてはどうか。日本型・多治見型の利用法を考えてみる必要がある。

(事務局) 雨水利用については、取り組んでいる人からの意見をお聞きして、上手く言った事例については、紹介して広めていくというようにしていきたい。廃棄物からは少し離れてしまうが、環境全般からみた視点で皆さんからご意見をお聞かせいただければと思う。

(委員) このアンケート結果は公開されるのか。

(事務局) これは、委員会等で議論していただくためのもの。公開を前提とはしていないが、施策を見直す際の資料として市民へ公表していくことになるかと考える。

(委員) 企業は、自家発電の場合は何年くらいで元がとれるのか。

(委員) 太陽光は10年くらいと言われている。

(委員) 太陽光発電のパネルの耐用年数がまちまちである。これが改良されるとどの企業も太陽光発電にするのではないか。企業は、環境のためにやっているのか、採算がとれるからやっているのか。

(委員) 両方であるが、社員の啓蒙にもなる。

(委員) 焼却場で出た熱は、利用しているか。

(事務局) 発電し売電している。これから建設される市の施設については、太陽光発電を設置する予定。

議題⑤

(ごみ処理手数料の見直しについて、資料に基づき事務局より説明)

(委員) ごみ袋の料金を値上げすると不法投棄が増えるので、値上げしないでほしい。

(委員) 町内会に加入していない人のごみ搬出についての対策をしてほしい。

(事務局) 不法投棄とごみ袋の値上げとの関連性は不明だが、今後も不法投棄を減らす方向で取り組んでいきたい。

(委員) ごみ袋1袋あたりの費用が高くなったということは、ごみ袋が高くなったからたくさん積み込んだということか。

(事務局) 23年度については、水害ごみが多かったため、燃料がたくさん必要となったためだと思う。ごみ質が変われば、燃料(コークス等)の量も変わってくる。

合併後、笠原クリーンセンターの費用が加わった分も若干あるが、特に20年度はコークスの購入費用が高かったことも大きな要因と考えている。

(会長) 先ほどの説明では、ごみ袋の値上げは当面しないで、事業系を考えたらどうかとのことだが、意見はあるか。

(事務局) アンケート結果からも、努力されていることはわかるが、委員から意見を聞かせてほしい。

(委員) もし事業系を値上げするなら、値上げする理由を示すべき。

(委員) 「努力してごみを減らした分、安くします」など、1円でも2円でも反映して、頑張った成果が見える仕掛けができればいいが。

(事務局) 現在の料金に値上げした際に、「努力した人が報われる制度にしよう」という思いがあったと聞いている。実際にごみ量は、減っているのに、市民は努力されていると考えている。

(委員) ごみが減った分、ごみ袋が安くなるなど、目に見える仕組みができないか。

(事務局) ごみの減量をし、ごみ袋の使用枚数が減ることで、目に見えるものと理解している。

(委員) 平成17年と22年度の間でごみ量は14%下がっているが、費用は1.3倍になっている。ということは、燃料をたくさん使ったのか、費用が上がったのか、その辺をきちんと説明する必要がある。ごみの量が減っているけど、費用が上がっているから、一時的に値上げしなければいけないことを説明してはどうか。公共料金なので、ごみを多く出した人は、負担が増えても仕方がないと思う。

(委員) 袋の値段を安くするのではなく、1円でも2円でも積み立てて、環境教育に使ってはどうか。そうすれば市民も納得するのではないか。

(事務局) 料金改定の際に、当時の本審議会で議論になったことは、袋の値段が高いか安いかではなく、頑張った人は袋を使わなくてすむというもの。一方で、ごみが減っても、収集費用や焼却炉の維持管理費用は比例して減らない。ごみ袋を値上げするのではなく、まずは、コストの精査が必要と考えている。全庁的に使用料の見直しをしているので、審議会の意見がほしいが、この時期に値上げということは難しいと考えている。しかし、事業系については、収益を得られているもののごみなので、どのように考えるかということ。

(委員) 三の倉等に搬入した有価物を売ったお金は何に使われているのか。

(事務局) 基本的には、施設の運転費用。ごみ袋の代金は、収集費用や不法投棄に係る費用に使っている。環境教育については、違う基金を使用している。

（委員）私自身、維持するために一定の費用に係ることは、理解できるが、事業系について、この時期に値上げされることは、とても厳しい。何年か前に値上げされた時も、厳しかった。「ごみが減っているから、料金減らしてくれよ」と言われる。

（事務局）事業系のごみ減量も進めていく必要があるが、値上げによってごみ減量につながるのか、違う方策を使ってごみ減量につなげていくのかについても、ご意見をお聞きたい。

（委員）センターも生ごみばかりでは、費用がかかるので、生ごみの脱水機を購入してはどうか。

（事務局）提案についてご賛同いただけたと思っているが、ごみ減量については、今後もし取り組んでいかなければいけない。ごみの組成の問題もあるので、それについては、次回以降に検討をお願いする。

その他

（委員）被災地のごみの受け入れについてどうなっているか。笠原クリーンセンターの焼却炉を動かして、受け入れたらどうか。

（事務局）福島県以外の宮城県と岩手県の可燃性のごみについては、処理ができる目処がたったと聞いている。埋め立てごみについては、近隣の県で受入れるとも聞いている。岐阜県は（可燃性のごみについて受入を検討していることから）埋め立てごみについて受け入れの検討はしていない。

放射能のこともあり、いろんなご意見をいただいている中で、被災地の状況を見ながら対応することになるが、現在は、受け入れについて必要がないのかなという状況。

なお、笠原クリーンセンターの焼却炉を再稼働させるのは、難しい。

（委員）会長からお話があった小型家電の受け入れについて、次の処理計画に組み込むことを事務局は考えているのか。

（事務局）多治見市はモデル事業という形で、昨年度から、先行して取り組んできた。具代的な方法が環境省から示されていないが、今までのやり方になればいいと思っている。計画に反映したい。

15：45 閉会